

【第1回～第10回 まで】

【第10回研究会】 [(2011(平成23)年3月18日(土))] 発表者：中川 昌信 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第9章 経営論 (p.256 - 268)

中川氏は、テキストの企業経営を学校経営の場合と対比しながら提案し、話し合いもその線に沿って主なわれました。

〈概要・要旨〉

1. 心理学的配慮
学校経営の場合も教育目標の達成のために教職員の力を結集するために配慮しなければならない。
2. 配慮すべき基本的原理
個々の教職員は信頼するに足る存在であるとの認識
3. 事実に対する認識
一人一人の教職員の心理を理解することが必要
4. 教職員に対する態度
本来、活動的であり、仕事を好み、何かを完成したいと望むものであるとの認識をもつことが大切。
5. 望ましい学校経営
支配・被支配の関係ではない。法的には校長は所属職員を監督する立場。権限があるが責任もとる。監督権の濫用は慎まなくてはならない。最後は校長の人間力がものをいう。
6. 組織の中の職員として
本来最終的な生活目標の達成に向かって仕事をしている。学校づくりに対する全員の参加体制が重要。
7. 親和的關係に立とうとする傾向
信頼によって結び合う人間関係をいかに確立するかが大切
8. 心身ともに健康な人間に
対子ども、対保護者、校内の人間関係、過重な事務負担、自分の健康や家族の問題等で教員に精神疾患が多い。教師の命取り一体罰、金銭、異性に注意

〈話し合い〉

- ◆ 学校経営と同時に学級経営もあると思う。
- ◆ 「教と育と経営の五十音」を書いたことがあるのでいっか紹介したい。
- ◆ 校長のリーダーシップがほしい。観念的でなく具体論で指導してほしい。
- ◆ 私が仕えた校長は、それまでの受験勉強中心の学校から、子どもが意欲的に主体的に学ぶ学校へと一変させた。着任早々その校長は「桜の花がきれいに咲いていますね。この学校には桜の木が何本あるでしょう。」というクイズを出した。これに答えようと子どもは動き出した。子どもが自ら追究し始めた瞬間だった。学校著書として『自主協同学習の展開』（明治図書）を出版し、全国に研究成果を発表するまでになった。学校が変わったのである。

【第9回研究会】 [(2011(平成23)年2月12日(土))] 発表者：浜崎 順子 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第9章 経営論 (p.253 - 266)

〈要 旨〉

マスローは、ブラックフォート族インディアンの研究を通じて、リーダーシップのあり方について、また企業のリーダーのもつべきリーダーシップを考えた。それは優れた経験と才能を有し、グループを構成するメンバーを把握する能力をもち、人間性をよく認識する人物によってはじめて発揮できるものである。望ましいリーダーの特色は健全な性格をもち、健全な行動のとれる人であり、さらに集団のもつ義務や課題を同時に自分の問題としても持っている人でなければならない。

また、リーダーは常に B 権限を遂行できる存在でなければならない。B 権限とは、真・善美・正義・完

全といったB価値を發展させ実現させようとする権限をいう。真のリーダーシップは、普遍的な価値に対する真摯な尊重と追求が伴うものである。

〈話し合い〉

- ★ バレーボールの体験からいうと、一般的な事務遂行能力が高いからではなく、バレーボールの技術や戦術、人間関係をうまく支えられる人がリーダーとしては望ましい。
- ★ リーダーとメンバーの關係に「ギヴ&テイク」があるとしているが、何かいい表現がないだろうか。
- ★ 「ギヴ&ギヴ」の「情けは人のためならず」あるいは「ギヴ&ギヴ」の「無償の愛」の言葉がある。報われることを期待しない親心だ。B価値権限の究極の姿ではないか。
- ★ 十川ゴムの十川照延社長の『企業の永續と發展一人づくりの經營をめざす』という本には十川ゴムの人づくりの三か条として
 - 1 經營者率先の人間教育（率先垂範の感化教育で自主性を育てる）
 - 2 従う人間から、創造する人間（自由に意見具申できる環境づくり）
 - 3 物心両面の向上を図る（職場環境や待遇改善も人間形成のバックボーンがあり、この三つの方針に沿って、人づくりに取り組んでいる。
十川社長はこうした人づくりに重点をおいて企業經營をしたためバブル時にも頑として株や土地、ゴルフ会員権などに手を出さず、バブルの崩壊を見事に乗り切ることができた。

【第8回研究会】 [(2011(平成23)年1月22日(土))] 発表者：森 光巧悟 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第9章 經營論 (p.259 - 263)

〈概要〉

1. 經營の対象とする組織体の構造について
原子論的、因果關係的、連鎖的ではなく有機的組織と考えており、社会に対しても一定の役割と責任を持っている。
2. 企業内の組織について
企業の目的は利潤性、収益性にあるが、社会の關係や企業の人間の側面を無視した目先の利益の追求のみに終止することを意味しない。
3. 企業の統合性を高める条件
 - 第1 企業の生産に関する目標なり課題、社会的役割については經營者はもちろん従業員すべてが明確な認識をもつこと。
 - 第2 企業の利益と企業における個人の利害とが一致すること
 - 第3 よいリーダーシップの存在。オーケストラの指揮者でなければならない。

〈考察〉

1. 人間の欲求階層論と企業の欲求階層論

自己実現の欲求 ↑↑ 尊重の欲求 ↑↑ 愛情と所属の欲求 ↑↑ 安全の欲求 ↑↑ 生理的欲求 (個人)	-----	企業と社会要請が一致 ↑↑ 世間に承認(上場) ↑↑ 労使間の關係がよい ↑↑ 定期的に売上げがある ↑↑ 利益をあげる (企業)
--	-------	--
2. 原子論的構造は、多数の独立した小企業で形成される市場構造とみてよいか。
3. ネアンデルタール人が滅び、ホモサピエンスが広まったのは他部族との物々交換による經濟發展によるとするマット・リードの説に賛同するが、經濟というより、よりよく変わろうとする成長動機、高次欲求ではないか。

〈討論〉

- ▽ 今日「内部告発」や「企業倫理」がよくいわれている。消費者の立場にたった場合、とても許せないのである。せつかくの告発者が退職に追い込まれてはならない。
- ▽ 企業間の不当な經濟競争を規制するものとして独禁法は代表例だ。私的独占のほか、カルテルも厳禁

されている。

- ▽ 経済の健全な発達に歯止めをかけ、株主、債権者、従業員、地域住民、顧客、地方公共団体、国家、国際社会の利益を考えて行動してはじめて正当な経済競争が実現できる。マスローの言う通りだ。
- ▽ 人間と企業の欲求階層の比較や人類発展の基礎に成長動機があるという森氏の提案は面白い。成長動機があると思いたい。それがなければ人類はとっくに滅びている。
- ▽ マスローは人間の本性を「善」と考えた。宗教家は、そこに万物を生成発展させていく神の慈悲の心が存在すると説く。
- ▽ マスローは科学者の立場から述べたのだが、まだ十分証明されたとはいえない。

【第7回研究会】 [(2010(平成 22)年 12 月 4 日 (土))] 発表者：河野 憲一 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第9章 経営論 (p.257 - 259)

- (1) 「欠⇒欠」 経済活動は、欠乏した物の交換活動である。そこには利害対立の「調整」(制度：例えば、関税)が必要であり、資本主義や社会主義といった「思想」もその産物。ハングリーな欠乏欲求は最もエネルギーが強く、経済成長をもたらす国を豊かにする為に必要でもある。かつて日本にも富国強兵なる「欠⇒欠」の強シナジー国家の時代があった。
- (2) 「欠⇒成」 「小さく」「可愛い」ものを慈しむのは、人間のみならず生物一般の本能だ。だから庇護を必要とする赤ん坊は猿も犬もヒトも可愛い。それが成人の本能を刺激しており、そのことで自分を守っている。それも本能であり生きるための生命の仕組みなのだろう。また、生命維持のためには「大きいもの・強いもの」への憧れや欲求もあろう。しかし、そのような本能的な愛と同時に、人間的な愛ともいうべき成長欲求な与える愛もある。それは「弱者」への愛である。人は弱者を置き去りにせず、共に生きていける。単質ではなく、異質な人や弱者を切り捨てず、取り込んでいける社会が危機に強い社会である。〈弱者〉身体的弱者(障害のある人)
社会的弱者(いじめ、就職や結婚で差別を受けている人)
経済的弱者(生活保護受給者)
精神的弱者(ひきこもり)
- (3) 「個人のやむにやまれぬ強い愛情欲求(成長欲求)の満足が、障害児の欠乏欲求の満足につながる」(自己満足が、他者満足に通じる)のではなく、「個人のやむにやまれぬ強い愛情欲求(成長欲求)の発現が、障害児の欠乏欲求の満足につながる」(無欲の愛が、他者満足に通じる)のではないか!? つまり、成長欲求はただ発現するだけのものであり、「与える欲求は、満足したのもういい!」という止むというものではなく、満足しようとも満足しなくとも、エネルギーが低下すれば消滅するものではないか。成長欲求の場合、満足が問題なのではなく、人間には、そのような欲求があり、発現するということが重要なのではないか。欲求を満たそうとするのは、欠乏欲求的な成長欲求だ。真の成長欲求は、ただ発現するだけのものであり、欠乏欲求とは異なり、満たすことが重要なのではなく、成長欲求の発現する環境整備や欲求に応じることが重要であると考え。
- (4) 上記(3)のように、「障害者は欠乏欲求に支配されている」と考えがちだが、妥当か?
中途障害は別として、生来の障害者には「できないこと」を「欠乏」と思っておらず、自分の「通常」であると認識している人もいる。劣等感が行動の動機ではなく、ただ励まされて努力をすることがある。手を少し動かして楽器の音を出せたりすると、周囲の人の援助の達成感という欠乏欲求を満たすこともある。人に笑顔をもたらそうとする行為だ

【第6回研究会】 [(2010(平成 22)年 11 月 13 日 (土))] 発表者：中川 昌信 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第9章 経営論 (p.252 - 257)

〈概要〉

- マスローは経営論に関して一家言を持つ。著書『ユーサイキアン・マネジメント』(『自己実現の経営』)にあるように、ドラッカー、マグレガー、リッカート、ハーツバーク等の企業経営の専門家の知見を彼の心理学理論と統合した。何より経営側がマスロー理論に関心をもったことが重要。
- 経営側に貢献した点は「シナジー概念」を導入したこと。
- 「シナジー」とは「全体的効果に寄与する各機能の共同作業ないし共働」(R. ベネディクトの定義)

で、マスの二二分法の統一という概念と共通。

〈討 議〉

- ハーツパークのMH理論の「仕事の上での真の喜びは、賃金が高い、人間関係が良い、福利施設が整っている等々の要因で決まるのではなく、能力に対する評価や信頼、責任ある仕事を任せる、良い仕事を為し遂げる等々の要因によって生み出される、という考えにはマスのB価値と共通面がある。
- しかし、現実には例えば崇高とされる介護職の人も激務の上、賃金安で続かない。
- MH理論もある一定水準の要素が満たされた状況でのことではないだろうか。
- 三方善は、自己と相手と第三者のいずれにも幸福を与えるという、真に社会に開かれた態度で、わが国では昔から言われている。例えば京都の老舗では、お客、職人、世間の三者がうまくいくように考えるのが店の主人の仕事だとされてきた。学校経営の立場からいうと、子ども、教師、保護者・地域の三者がうまくいくように考えるのが校長のマネジメント。
- その「うまくいくように」というところが難しい。教育面では三者が相互に関係をもっており、それぞれの力が均等でなく、歪んだ状況でバランスがとれていない。
- どうすればシナジーの利他的共働性が発揮されるのだろうか。
- 一つには、三者相互に相手のことを思いやるシンパシー（交共感性）の力を育てること。行事一つにしてもその意義や価値を三者がしっかり踏まえて共有していく。そのためには矢張り学校側がリーダーシップを発揮して地域の教育力を高めていく努力をしていかない。

【第5回研究会】 [(2010(平成22)年10月23日(土))] 発表者：森下 義雄 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロ心理学研究』 誠信書房 1988
第8章 教育論 第3節 (p.248 - 251)

〈外因的知識と内面的成長〉

マスロは知識や技術のみに偏った教育を批判するとともに、そのような教育の結果としての没価値的な科学が極端になると非人間的な大量虐殺の手段として使われる危険性さえも指摘している。一方、明確な目的での知識技術の必要性は決して軽視せず、理想としてこの両者が統一され、人間の成長がなされることを期待している。

まず基礎学習が十分に行われてはじめて人生観や生活目標を自ら学びとれるという論もあるが、現実においては、教科の学習と人生観の確立とは同時平行的に行われ、双方が互いに学習への意欲を高めあっている。ただ、受験体制だけで学習の目標を設定するのでは学習の喜びも意義も感ずることはできない。

〈討 論〉

- ☆ 知識を支えるものとして情意がある。よく知識や技能は見える学力、情意は見えない学力とされている。このバランスが大切だ。
- ☆ 学力第一位のフィンランドでは日本との貿易は黒字。他にイタリアなどブランドを持つ国も黒字。スイスは時計、観光など職人に支えられたブランドを持つ。日本もいろんな職業に興味を持たせ、体験させ、社会に繋ぎ世界レベルの職人を育てるべきだ。
- ☆ ヨーロッパでは職業訓練が充実していて特にマイスターには高額の収入も保証され、尊敬されているから、本人もプライドを持っている。日本では単一の価値観で差別意識がある。
- ☆ 問題解決力が大切で総合の時間は大切な時間だが、教師の力量が問題。
- ☆ 解決力よりも解答力に力点がある。
- ☆ 小学校6年くらいからキャリア教育をする必要がある。
- ☆ 今の若者に足りないのは辛抱する力で、世の中で人から信用されることが大切だ。
- ☆ もう一つ大切なことは、今では死語になっているいわれる「志」。生きる目標で、「何のために勉強するのか」という内面的成長の部分をもっと教育する必要がある。
幕末維新に活躍する多くの人材を育てた吉田松陰のことを書いた『人はなぜ勉強するのか』（糠文吉 2005 モラロジー研究所）という本を読んだことがある。第一章は「人生のデザイン」で、どんな夢を持っているか、自分探し、集団の中の自分、自己訓練、立志、生涯学習の基本的課題としての人生設計、生涯学習の活力としての隣人愛、生涯学習の醍醐味としての天与の自分探しといった興味ある題が続く。「天与の自分」とは、「天から一人一人が授かったかけがえのない尊い独特の持ち味」のことである。第二章以下は吉田松陰の志と勉学となっており、一読に値する。

【第4回研究会】 [(2010(平成22)年9月19日(土))] 発表者：松山 哲也 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第8章 教育論 (p.246 - 248)

〈テキストの概要〉

1. 教育の場では親、教師の影響は、単に言語的コミュニケーションのみではない。
2. 教師自身のあり方が人間形成の要因になることが多い。
3. 人間主義心理学の立場は、認知の持つ相互影響力を重く見る。

〈話題の提起〉

- 教育者、治療者は、技術以上に、その人自身の人格構造が問われているのでは。理論的に優れた治療者が必ずしも治療に成功するとは限らない。素人の方がかえってよい効果を出す場合もある。(素人療法) その人自身の人格構造をうまく生かすために技術や理論が重要なのではないだろうか。
- 子どもを有能でよい人間と見ることの危険性は？ 無能感を味わうことも大切ではという気が最近する。オール主役の学芸会、順位をつけない運動会？？？ 無能感をありのままに受け容れ、認める強さも大切では？？？ 有能感と無能感の好ましいバランスを維持することの重要性。いずれ無能感に直面したときの悲劇もあるのでは？

〈討論〉

- 教師との人間関係という点では一方的なテレビや通信教育には問題もある。
- 期待効果というよりも子どもが希望するように、自己実現するようにすることが大切。・子どもがより深く自己を見つめる教育が重要で、そのためには教師との会話や面接が大切である。
- 無能感に直面せず、有能感ばかりではよいか。今は環境に恵まれている。挫折した時の悲劇が大きいのでは。
- 運動会では負けた子に対するいたわりや、感謝の心が大切で、一人ひとりが精一杯することが大事。努力が足りないだけ言うのではなく、できるようにヒントを与える。

☆————☆————☆————☆————

第二節の人間主義心理学の最終回でした。

戦後、新教育が唱えられた時代に比べ、環境的に恵まれた今日、マスロー理論通りにはいかないのではという懐疑論も聞きます。しかし、理想を追究したマスローの真意をよく理解し、真に子どもの側にたった教育を日々の実践から創造していかなければなりません。理論と実践との相互交流を大切にしたいものです。

【第3回研究会】 [(2010(平成22)年7月17日(土))] 発表者：浜崎 順子 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第8章 教育論 (p.243 - 246)

〈1 所感〉

開放的な雰囲気の中で、子どもは自由に自分を表現でき、育っていくとずっと思ってきたので、人間主義心理学の教育観は納得しながら読むことができた。ただ「学習過程において動機づけの必要性を認めず、また、それを重要視しない」とは言い過ぎではないだろうか。クラスの中には、動機づけを必要とする子もいる。

水上勉さんの一滴文庫に行った。そこは生前に水上さんが、大飯町に寄付されたところである。ビデオを見せてもらった。「わたしが今あるのは、子どもの頃貧しかったおかげである。」と述べておられた。3のところを読んで思い出した。

〈2 疑問点・論点〉

- (1) マスローの言う「人間の無意識化にある一次過程」とは、どういうことか。
- (2) 244 ページ「今日では、純粋な自発性は夢や空想、精神的な遊びといった世界でのみ認められる事柄であるが、また一方、純粋な統制も、精神の圧殺を意味するものであり、これまた実現するに不可能と考えられるのである。」とはどういう意味か。
- (3) 挫折体験のところで、周囲のおとなが教育的意図をもって与えるものではないとあるが生活グループやボールゲームのチームづくりの時、もめないように人間関係を意図してつくってきたが、どうなのか。反対にもめるようにしてつくった人もいた。一番気になったのがくじ引きでつくった教師であるが、どう考えたらよいか。私は意図的なグループづくりは教育として重要だと考えている。

〈3. 話し合い〉

- 「一次過程」は「二次過程」と同様、既習事項にあり、再読して理解を深める。
- 席替えは基本的にはくじ引きでしている。ただし、特別支援を必要とする子や配慮を必要とする子の場合は教師の教育的意図でなされる場合がある。偶然の出会いも大切。
- スポーツチーム編成の場合、教師の意図が多く働く。挑戦意欲を刺激する同時に、生涯運動が好きになる子を育てる必要がある。下手の横好きの子を育てるのも大切ではないか・挫折体験の重要性が認識され、様々な体験・学習が行われているが、大切なことは子ども自身の内部から苦悩に立ち向かい、挫折を克服していく力をつけることではなからうか。
- 留意すべきは、挫折を体験した他者に対して薬になっただてしょう、という言い方は絶対避けなければならない。自身の問題である。

【第2回研究会】 〔(2010(平成22)年6月19日(土)) 発表者：森 光巧悟 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第8章 教育論 (p.238 - 242)

(1)欲求論から

教育目標は人格の自己実現であること。事実、縄跳びのできなかった子が前跳びができるようになり、次のあや跳びやうしろ跳びのような新しい技に挑戦している。教育は自立的人間、探求的人間を目指すことから、星の勉強に興味を持ち、今度は自分から星の観測をしたりしている。フェアブルが虫の世界に魅せられていくのもそうである。

(2)自我論から

教育は献身、没頭、熱中、愛情といった精神的特質を重視する。愛情の温かさを知っているからこそ周りに愛情がかけられるのである。

(3)認知論から

教育は斬新な感覚で、新しい事実を発見するように導かれるべきである。現実には教師は教科書の内容を教えるのに必死で話をじっくり聞く時間がない。故に教科書「を」でなく「で」がより大切ではないか。

(4)表現論から

外部からの規制がなく、もっぱら個人の人格構造に基づいて行動が表され、個人の自由な表現が重視されるべきである。しかし、現実には外部から一定の客観的的回答を求められる対応行動的教育が多いのではないか。

(5)創造性理論から

人格の深層にある無意識的衝動（一次的衝動）は、決して反社会的なものでもなければ危険なものでもない。主婦のユニークな料理や自発性の高い児童が自由な表現によって自己の深層を浮かび上がらせている例がある。

(6)超越的人間論から。

善悪からの超越、利己と利他の高次からの統一とあるが、「無我」のとらえ方が仏教用語と同じなのか、「真我」と共通しているか、大乘仏教や親鸞の考えなどとの関連があるのか。

—————☆—————☆—————☆—————☆—————

こうした発表に関連して、学力の向上は単に基礎基本と応用発展の問題だけでなく子どもの人間力をいかに高め、人としての器を大きくする工夫が必要であることや、無我を大切にする日本人と自己を主張する欧米人の自我のとらえ方の相違についても話し合われました。教育の基本理念の追求でマスロー理論が大きく貢献しているのを再確認しました。-----

【第1回研究会】 〔2010(平成22年)5月15日(土)) 発表者 河野 憲一 氏
テキスト：上田吉一(著)『人間の完成 マスロー心理学研究』 誠信書房 1988
第8章 教育論 (pp. 234-238)

河野氏は、テキストの概要、要旨の紹介を行ったあと、次の5点について話題を提供しました。

(1)「相互作用」について確認

教育の本質は、精神的領域における相互作用が中心。つまり教育は教師と生徒との精神的な相互作用で

成り立つ。片方を定数にして片方が変数なのではなく、双方が変数の掛け算である。このため、一方が0では、いくら他方が頑張っても成果はない。教えることは学ぶことであり、教師・生徒共に感化によって人格之陶冶がなされるという意味で、教育は動的・可変的な営みである。

(2)「目的」について

「善い用具と悪い用具」…二分法で「優劣」を付ける「比較」の問題ではないのでは。善悪の用具が存在するのではなく、この用具のこの部分はAの用途には善いが、Bのためにはこのように改善できる。有効な(善い)部分と、改善できる部分とを合わせ持つ、用途(目的意識)により、同じ用具に対しても価値意識が変わる、と考えられる。

(3)「欠乏欲求があっても」

価値実現を唯一の目標として求めれば、それは「欠乏欲求」。成長欲求は無目的であるから、求めなくても自然とそのような高次価値を体現できる行為こそが望ましいのではないだろうか。しかも、それは必ずしも欠乏欲求が完全に満たされてはいなくとも、少なくとも欠乏欲求には強烈に支配されないで、その欠乏状況下でも成長欲求を合わせ持ち、自然と高次価値を体現できる。それこそが望ましいのではないだろうか。

(4)「完全なる人間」について

生物学的にヒトは皆、完全なる人間であり、サル 3%、ヒト 97%の人間などいない。ここでは能力や人格を問題にしている。完全なる人間はいないが、完全なる人格者を創造(想像)することで神に近づこうとしている。

(5)「教育が創造し、再生産する価値」について

人間中心であってはならない。普遍的な価値の獲得が大切。それには人間の中の宇宙像と宇宙中の人間像という2方向からの視点で想像することが真実の人間観を創造するのではないだろうか。